

特集

特集／エンパワーメント再考

インド農村女性のエンパワーメント―女性酪農協同組合の事例から

秋吉 恵

本稿では女性酪農協同組合に参加することで、インド農村女性が家庭での発言力を高め（エンパワーメントされ）、その結果ミルクの生産性向上と自らの福祉の双方を達成し得る可能性について検討する。なお、本稿では「家庭」を、最も基本的な社会単位で、福祉を追求するために一つの家庭の下にある社会関係を表す言葉とした（参考文献③）。また紙面の制約から女性の世代間の関係（嫁・姑）には触れないこととした。

●インド農村家庭での男女間の不平等性

『世界人口白書』（二〇〇四年）や『インドセンサス』（二〇〇一年）によると、インドでは五歳未満時死亡率が男児より女児で高く、性別の人口比は男性に偏り、平均余命は男女で一歳しか変わらない（先進国平均では女性が七歳長い）。そしてこの男女格差は都市部よりも農村部の方が大きい傾向にある。

カルナータカ農村に暮らす成人男女の摂取カロリー調査（一九八三年）や医療施設の利用者調査（一九八三年）など多くの研

究報告を元に、参考文献④は保健指標の男女差は女性／女児と男性／男児の食料や医療サービスへのアクセスの違いを反映していると分析した。このほかにも労働時間の過剰、融資へのアクセス・現金の管理・運用の機会がないなど、資源の配分とその利用において性による不平等が報告されている。参考文献①はこういった男女間の不平等性を変えない限り、家庭の所得があがっても女性の福祉の増進にはつながらないという。

●家庭における男女の役割の変更

家庭内の男女間の不平等性は女性が所得を得られれば変わるのだろうか。途上国の中で多くは、女性の福祉を目的としたマイクロレジットや雇用創出が実施されている。しかし、インド・グジャラート州の家庭内工業の労働者女性は収入が上がるほど本人はその使い方に関与できなくなり（参考文献⑦）、バングラデシユ農村では女性がマイクロレジットを得た後も罹患時の保健センターの利用は増加しない（参考文献⑧）ことが報告されている。つまり、南アジア

での調査研究は、女性が収入を得ただけで家庭内での男女間の不平等性は変えられないことを示している。

家庭での所得などの資源の配分と利用における不平等を変えるにはその方法を変えなければならない。家庭での資源配分と利用に関わる利害は、その構成員の間で一致（家族が共通して持つ利害）していたり、対立（家族の構成員各々が持つ利害）していたりする。そのため、家庭の方針を決めるときにおこる「協調的対立」（cooperative conflict）において、構成員の交渉能力を左右するのは、各々が持つ二つの認識である（参考文献⑩）。それは第一に家庭に対する貢献（contribution）の認識、第二に自分にとっての利益（interest）の認識である（センは利益として病気の回避や教育を受けること等を挙げて福祉 [well-being] とは区別した。また一九九九年の世界銀行での講演に基づく著書では利益をエンタイトルメント [entitlement] と言い換えている）。インド農村女性は余暇や情報の不足によってこれら二つを正しく認識できず、それが家庭の資源配分やその利用方法を巡

る意思決定に女性は参加しないという「ルール」(社会制度。本稿ではこれを「資源配分ルール」と呼ぶ)を維持してきたと考えられる。

しかし一部には、インド農村女性を規定する慣習的な役割(「資源配分ルール」を酪農協同組合が変更したという報告がある。参考文献⑫)によれば、グジャラート州の酪農協同組合に登録した女性組合員がそれまで意見を述べる事がほとんどできなかったミルク生産を自らの意思で管理できるようになったという。参考文献⑤はマハラシュトラ州の女性酪農協同組合の調査から、女性組合員がミルク生産技術と所得を得て家庭での乳用家畜の購入や近代農業技術の利用の決定を行うようになったと報告している。

一方、参考文献⑨によるアンドラプラデシュ州の女性酪農協同組合の調査など女性組合員のミルク所得の管理は認められないとする報告もある。この事実は酪農協同組合に女性が参加すれば、ミルク生産における男女の役割(「資源配分ルール」)変更が必ず起こるとはいえないことを示している。では、「資源配分ルール」が変更できるかどうかは何によって決まるのか、ミルク生産に関わる男女の役割から検討する。

●「資源配分ルール」とミルク生産

ミルク生産にもインド農村の慣習的な

「資源配分ルール」が反映されている。

ミルク生産には、家畜の世話(掃除、飼料や水の供給、放牧、搾乳、加工)、繁殖と獣医療(獣医師等への連絡、薬の投与、人工授精や自然交配、出産介助)、飼料の生産(青草飼料栽培と収穫、乾草飼料の収集)、販売や購入(ミルクや乳加工品の販売、家畜の販売、家畜の購入、集金)がある。

これら生産技術に関わる情報の入手、労働をはじめとする資源の配分と利用のうち、女性は単に労働のみを担い、外部からの情報収集を元に資源配分とその利用方法を決めるのは男性である。たとえば参考文献⑩はグジャラート州農村の貧困層と中流層の家庭では、獣医療へのアクセスと飼料の栽培、家畜の販売や購入、集金などは男性の仕事で、女性はそれ以外の単純労働にのみ従事していると報告している。

参考文献⑥はウツタルプラデシュ州農村において妻が担うミルク生産労働を調査し、さらに生産管理(資源配分や利用方法の決定)を夫と女性(妻、母、娘)どちらが行っているかを検討している。それによれば、妻はミルクの加工、飼料の供給、掃除や搾乳などの家畜の世話を行う一方、繁殖や獣医療、青草飼料の生産、ミルクや家畜の販売にはあまり関与しない。この妻が担う作業は夫が妻に期待する役割と一致する。また、生産管理については、繁殖・獣医療サービスの利用、青草飼料の生産計画は主に

男性が、ミルクや家畜の販売・購入に関しては夫単独か両者の相談で決定していた。女性が単独で決めていると判断されたのはミルクの加工に関わる部分のみであった。

この調査結果からは労働の担い手と生産管理の決定者が異なることでミルクの生産性向上が阻害されていることが窺われる。繁殖の成功には家畜の発情の発見が重要であるなど、繁殖・獣医療サービスの飼料生産は家畜の状況に応じて利用、計画されなければならない。

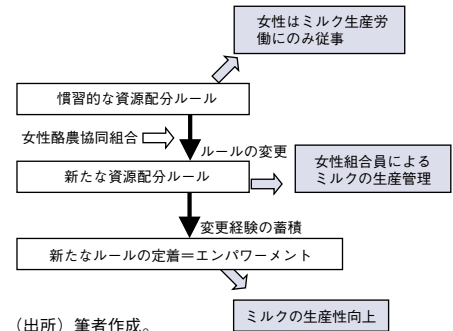
なお、参考文献⑥では、ミルク生産管理への参加の割合はミルク生産技術についての情報入手量に関連していた。このことから、女性がミルク生産に関わる資源管理に携わるためには、まず情報入手における男女の不等等を是正する必要があると考えられる。

●「資源配分ルール」変更の経験

ミルク生産労働における規範的側面(「資源配分ルール」の変更は、「酪農開発政策」と「開発と女性」(women in development)の二つの運動論に負うところが大きい。

まず、一九六〇年代後半には「酪農開発政策」におけるミルク生産性向上の観点から、ミルク生産労働の主な担い手である女性への技術教育がカイラ酪農協同組合連合体(ユニオン)によって始められた。当初は組合員の妻として研修を受けていたが、

図1 ミルク生産に関わるルールの変更



技術の利用を促進する上で女性自身が組合員になることが推奨された(参考文献②)。これにより女性組合員が生産技術情報を入力し、家庭でミルク生産に関わる資源を管理する素地ができたと考えられる。

また、一九七〇年代には「開発と女性」によって表される女性の開発における主流化の観点から、女性の社会的経済的状況の改善を目指した教育や開発計画がNGOなどによって進められた(参考文献⑬)。

この二つの動きが一九七〇年代後半に合流し、農村の雇用創出の一つとしてミルク生産労働が取り上げられ、女性酪農協同組合が形成された。

そこで筆者が二〇〇三年から調査しているインド・グジャラート州ガンディナガール県S村の女性酪農協同組合での「資源配分ルール」の変更過程を考察してみよう。本事例はSEWA (Self Employed Women's Association) の支援を受けて一九九二年にガンディナガールユニオンに登録され、一三年後の今も継続している組合である。

農村女性の雇用確保を進めるSEWAは、S村女性の依頼を受けて女性酪農協同組合組織化を支援した。それは、家庭や村落協会集会で女性が組合員になる意義や酪農協同組合について説明することに始まり、ミルク集荷販売方法のスーパーバイズや、組合委員長がユニオン会議に出席する際に行うことまで多岐に及んだ。

ガンディナガールユニオンは、女性のみ

で構成される酪農協同組合を受け入れ、組合員に対して組合管理技術研修や牛や水牛の飼育研修を提供した。また、その後一三年間に渡り集荷ミルクの購入と定期的な支払い、獣医療サービスを提供してきた。

組合組織化以外にもSEWAは、女性組合員が交渉能力をつけて慣習的なミルク生産管理を変えることを目指し、女性が貢献と利益の二つの認識を獲得できるよう支援した。SEWAの行った支援とは、女性が家庭での貢献を正しく認識するための意識教育や、ユニオンと連携して女性名義で水牛を購入するためのローンを提供したり、女性組合員がユニオンによる研修や繁殖・獣医療サービスを利用しやすい環境を作ることであった。

SEWAとユニオンの連携と支援によって、女性組合員はミルク生産に関する情報の入手、日々の作業内容の変更、資源配分の決定と生産技術サービスの利用に関わっていく。たとえば、Aさんは、日常の家畜の世話の中で牛の発情を見極め、ミルク集荷トラックに自分でメモを託してユニオンの獣医師を呼び、その日のうちに人工授精を受けさせ、組合に対してミルクの収入から種付け料を支払った。

当初、女性組合員は「資源配分ルール」を変えることをためらい、夫や姑の反対も受けたという。それでもSEWAの支援を受け、少しずつその範囲を広げながら日々のミルク生産に関わる資源運用を主体的に

行っていた。それが可能だったのは以下の三つの条件があったからと考えられる。

第一には組合員自身が販売、販売額の受け取り、繁殖サービスの依頼を行うという組合規則があったこと、第二にミルク販売金が一〇日ごとに支払われ、かつその額が夫に脅威を与えるほど大きくなかったこと、第三に家畜飼育は女性の仕事であるという社会通念である。こうして「資源配分ルール」変更の経験が一三年間にわたって蓄積された結果、現在では多くの組合員家庭でミルク生産について新たなルール(女性が資源配分と利用を巡る決定に参加するというルール)が定着しているという(図1)。

●ミルク生産と女性の福祉

参考文献⑤の事例では、女性組合員はミルク所得をミルク生産のみならず自身の健康や女兒の教育などにも利用することを希望していた。またS村においては、女性の妊娠・出産時の医療へのアクセス、女兒の就学率や人口比率が上昇している傾向が認められている。S村ではSEWAが酪農協同組合設立前から保健キャンプや成人女性教育などの福祉支援を提供しており、「資源配分ルール」の変更経験が女性の健康や教育においても蓄積されつつあると考えられる。分配される資源や利用されるサービスはミルク生産と女性の福祉では異なるが、女性が参加できないという慣習的な「資源配分ルール」は両方に共通している。「資

「源配分ルール」の変更は二つの分野で起こり相互に影響しながら変更経験を重ねてきたと推察できる。

また、ミルク生産と女性の健康は、安全な出産のために不可欠な母（牛）の栄養改善、母（牛）の疾病予防や治療のための（獣）医療サービスの利用など資源の利用方法が類似している。インド酪農開発庁は牛や水牛の妊娠・出産に関する情報や体験を元に、女性組合員が自分の妊娠や出産の仕組みを理解し、避妊や妊娠中の生活への配慮を行っていると報告している。

●エンパワーメントの先にあるもの

本稿ではいくつかの事例研究を元に、女性の酪農協同組合への参加がミルク生産に関する「資源配分ルール」を変更させ、女性による家庭資源の配分と利用をもたらしたことを見出した。筆者は、このインド農村女性を規定してきた慣習的ルールの変更とそれに関わる経験の蓄積、そして新たなルールの定着が、女性酪農協同組合を通じて女性のエンパワーメントを示すものと考えている。新たなルールの定着には、女性が資源運用の権限を持つことを家族が認めたことを示すと考えられるからである。

インド農村家庭の慣習的な「資源配分ルール」の下では、市場や行政が与える資源やその利用機会が一部の家族構成員に集中し、女性の健康を損ね、結果的に家庭の持

つ次世代を育む機能を低下させる危険性すらあった。女性酪農協同組合への参加を通じて変更され定着したルールは、家庭において共通のルールで規定されていたミルクの生産性向上と女性の福祉の双方に反映される可能性を持つ。インド農村における男女間の不平等を是正するために女性酪農協同組合の事例から学ぶものは大きい。

（あきよし めぐみ／日本福祉大学大学院国際社会開発研究科博士後期課程）

《参考文献》

- ①トドロ・マイケル／スミス・C・ステファン（岡田靖男監訳）『トドロ・スミスの開発経済学』国際協力出版会、二〇〇四年。
- ②中里亜夫「インド・グジャラート州の女性酪農協同組合の展開―アームタヴァード県ドゥーマリ村の女性酪農協同組合の分析」〔『福岡教育大学紀要』第五〇号第一分冊、二〇〇一年〕。
- ③余語トシヒロ・高橋健『開発基礎論―開発研究』日本福祉大学、二〇〇二年。
- ④Agarwal, Bina, "Women, Poverty and Agricultural Growth in India," *Journal of Peasant Studies*, 1987, pp.167-173.
- ⑤Ghanekar, Dattatray V., "The Empowerment of Women Dairy Farmers in India Villages," *Partial Fulfillment of the Requirement for the Degree of Master of Arts, The School of International Communication of Ohio University*, 1997.
- ⑥Janal, Shagufa, *Women in Dairy Development*, New Delhi: Concept Publishing Company, 1994.
- ⑦Kantor, Paula, "Women's Empowerment through Home-based Work: Evidence from India," *Development and Change* 34(3), 2003, pp.425-445.
- ⑧Mahmud, Simeen, "Actually How Empowering Is Microcredit?" *Development and Change* 34(4), 2003, pp.577-605.
- ⑨Mitra, Manoshi, *The Andhra Pradesh Dairy's Women's Programme: A Case Study from Andhra Pradesh*, New Delhi: Indian Women Shakti Books, 1986.
- ⑩Rangnekar, Sangeeta, "Livestock Services from Women's Perspective," in Vinod Ahuja ed., *Workshop on Commercialization of Livestock Health and Breeding Services, Papers and Proceedings*, IIM Ahmedabad, World Bank and SIDC Bern, 1997.
- ⑪Sen, Amartya, "Gender and Cooperative Conflicts," in Irene Thker ed., *Persistent Inequalities: Women and World Development*, New York: Oxford University Press, 1990.
- ⑫Sonjee, G. and AH. Sonjee, *Reaching out to the Poor*, London: The Macmillan Press LTD, 1989.
- ⑬Srinivasan, Viji, *Indian Women*, Delhi: HARNAND, 1993.